土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

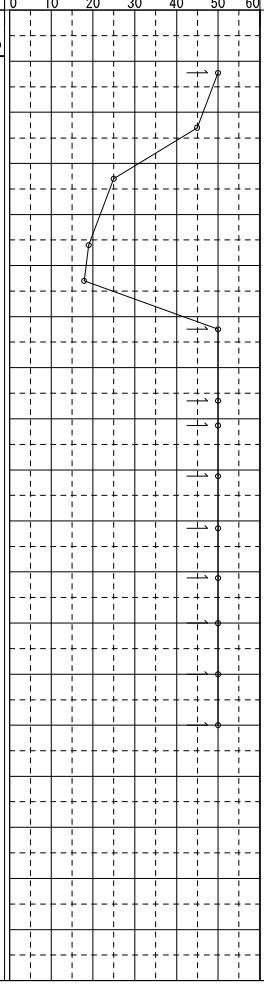
調査名	二級河川 御手洗川水系 御手洗川支川18通常砂防事業に伴う測量設計業務
事業・工事名	
調査目的及び調査対象	砂防　砂防

ボーリング名	R1-Bor.No.4	調査位置	副堰堤中央部	北緯	34° 21′ 39.7635″
発注機関	広島県西部建設事務所廿日市支所	調査期間	令和元年10月 8日～ 令和元年10月11日	東経	132° 16′ 21.7421″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 309.78m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	14.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1-B58型
					エンジン：ヤンマーNFD-12型　ポンプ：組込みBG-3C型

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1	308.63	1.15		礫混じり粘土質砂		暗茶 茶褐 茶褐	rc1		上部草根混入。 細砂～中砂を主体とする。 粘土分を全体的に10%程度含む。 φ10～50mm程度の礫を10%程度混入する。 GL-0.00～0.40m間、粘土分優勢。 下位に行くほど、粗砂が多く混じる。	10/8 0.90
2 3 4 5	304.18	5.60		玉石・粘土混じり砂		褐灰 褐～茶褐 褐灰～茶褐	rd3		砂は中～粗砂主体。 φ20～30cmの玉石が全体に点在し、マトリックスに粘土分を含む。 礫はφ2～20mmである。 GL-1.15～1.32m、φ20mm前後の礫主体となる。 GL-1.32～2.00m間、φ20cm程の玉石を含み、亀裂多く片状を呈す。 GL-3.60～4.30mにおいては玉石はコア肌やや粗く、亀裂角は鋭角で亀裂面は褐色化している。	
6 7 8 9 10	299.49	10.29		玉石・礫混じり砂		褐灰～淡褐 褐灰 褐 褐灰 灰褐～淡褐	rd4		砂は中～粗砂主体。 φ10～80cmの玉石を全体に含む。 礫はφ2～20mm程度である。 GL-5.50～6.35m間、下位に行くほど粗砂優勢である。 GL-6.35～7.17m間、コア長82cmの玉石を含む。コア肌はなめらかであるが、亀裂面は褐色化している。 GL-8.30m付近とGL-9.25m以深の玉石はコア肌が粗く、風化が進んでいる。	10/10
11	297.88	11.90		花崗岩		褐灰～灰褐			風化花崗岩。礫状～片状コア。 CL級。 指圧で容易に崩れる。 GL-11.70～11.90m間、部分的に風化著しく、礫状コアを呈す。	
12 13 14	295.78	14.00		花崗岩		褐灰～灰褐			花崗岩。岩片～短柱状コア。 CM級。 亀裂面は褐色化している箇所が多く、所々粘土を挟む。 コア肌はやや滑らか。 潜在亀裂が部分的にみられる。	10/11
15 16 17 18 19										

標準貫入試験

深度―N値図



N値	深度(m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
50以上	1.15	26	24		50/160	160	
	1.31		60				
45	2.15	25	10	10	45/300		
	2.45						
25	3.15	8	8	9	25/300		
	3.45						
19	4.45	7	8	4	19/300		
	4.75						
18	5.15	6	7	5	18/300		
	5.45						
50以上	6.15	21	29		50/200	200	
	6.35						
50以上	7.55	23	27		50/190	190	
	7.74		90				
50以上	8.00	9	11	30	50/260	260	
	8.26			60			
50以上	9.00	11	15	24	50/250	250	
	9.25			50			
50以上	10.00	7	15	28	50/290	290	
	10.29			90			
50以上	11.10	50			50/40	40	
	11.14	40					
50以上	12.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	13.00	貫入不能			50/0	0	
50以上	14.00	貫入不能			50/0	0	

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				10/8
				10/10
				10/11